

## 一つの命

むつ市立むつ中学校  
三年 木村 春翔（きむら はると）

命は一つしかなく、失えばもう二度と戻らない。そんな当たり前のこと、僕は「命の大切さを学ぶ教室」で改めて深く考えました。この教室では、実際に起きた事件をもとにしたドラマを見ました。兄を突然亡くした妹の話で、犯人はなんと兄の同級生でした。人が人の命を奪うという、あまりにも残酷で信じがたい出来事に僕は胸が苦しくなりました。遺された家族の涙や後悔がリアルに伝わってきて、「もし自分だったら」と考えずにはいられませんでした。

けれど、この教室で僕が本当に学んだのは、「命を大切にするというはどういうことか」ということです。命を大切にすることは、ただ生きるだけではありません。自分の命だけでなく、周りの人の命も尊重するということ。言葉や行動一つで、相手を傷つけることがあるということ。それに気づけたのが一番の学びでした。例えば、友達に対して軽く「死ね」などと言ってしまったことはないだろうか。家族にイライラして、ひどい言葉を投げつけたことはないだろうか。僕は自分のこれまでの行動を思い返し、深く反省しました。命を奪うことはもちろん許されない。でも、その命を苦しめたり、追いつめたりする言葉や態度もまた、命を大切にしているとは言えないと思いました。命の重さは、数字では表せません。一人ひとりにとって、自分の命も、誰かの命も、かけがえのない存在です。それを忘れずに行動していくことが、今の僕にできる「命を大切にする第一歩」なのだと思います。学校に行けること、ご飯を食べられること、友達と笑い合えること。そうした日常は、命があるからこそ感じられる幸せです。これからは、何気のない日々にもっと感謝して過ごしていきたいです。

命は、何よりも大切で守るべきものです。この教室で学んだことを、僕は決して忘れません。そして、自分の命を大切にしながら、まわりの命にも思いやりを持てる人になりたいです。